宮川町民大運動会が行われました

児童と地域住民が心一つに

9月9日（土）　宮川小学校

宮川小学校のグラウンドで、宮川町民大運動会が行われました。宮川町では、同小の運動会と町民運動会が同時に行われています。

この日は、同小の児童15人をはじめ、地域住民や宮川町出身者など約150人が参加しました。

小学校の運動会では、リレーや綱取り、応援披露などの競技が行われ、結果は同点優勝でした。

町民運動会では、町民らが赤白に分かれて障害物リレーや玉入れなどが行われ、結果は白団が優勝しました。

また、この日は古川中学校吹奏楽部が開会式に参加し、入場行進などの演奏を行いました。

一生懸命に走る児童

被災時のドローン活用へ

楽天の大型ドローン見学会

9月3日（日）　古川小学校

古川小学校で楽天(株)のドローン飛行見学会が行われ、多くの親子らが空高く飛行し荷物を運搬するドローンを見学しました。この飛行見学会は、昨年11月に連携協定を締結した同社との連携協定事業の一環で、被災時のドローン活用の物資輸送試験として市の防災訓練と併せて行われました。

この日は、同社所有の大型ドローン「天空（てんくう）」を使用しました。このドローンは、離陸から飛行、帰還までオートパイロットで行われる最先端のもので、今回は水やカンパン、非常食が詰められた箱の輸送試験を行いました。

楽天（株）のドローン「天空」

能　藤橋が行われました

幻想的なステージと雅楽の詩が観客を魅了

9月9日（土）　史跡江馬氏館跡公園

藤橋会と古川謡曲連合は、江馬氏館跡庭園国名勝指定祝賀記念講演として、飛騨能「藤橋」を江馬氏館跡の特設ステージで行いました。

第一部では、小謡、連吟、仕舞、素謡などが行われました。辺りが薄暗くなったところでかがり火が灯され、続く第二部では狂言「梟山伏（ふくろうやまぶし）」や神岡町に古くから伝わる謡曲「藤橋」を能に仕上げた演目が行われました。かがり火が灯る幻想的なステージには幽玄な世界が広がり、訪れた市民らから盛んな拍手が送られました。

文土器づくりに挑戦

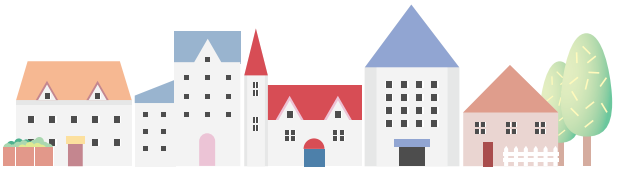
昔の人の暮らしにふれる

9月8日（金）　増島保育園

地域の遺跡からわかった縄文時代の暮らしを学び、昔の人の知恵を知り、ふるさとの歴史に興味を持ってもらおうと、増島保育園の年長児51人が縄文土器づくりに挑戦しました。

文化振興課の三好学芸員らに習いながら、園児らは、粘土で底になる円盤を作ってから、ヒモ状にした粘土を円盤の周囲に沿って重ね、つなぎ目を消すなどし、土器を作りました。その後、縄や貝殻などで思い思いの模様をつけ、自分だけの土器を完成させました。完成した土器は、乾燥させた後野焼きし、園児に手渡されます。

職員に習いながら土器作りに挑戦する園児



飛騨市ホームページでもご覧いただけます
http://www.city.hida.gifu.jp/ 飛騨市 検索

飛騨の魅力を満喫しよう
今年は35プログラムを実施

9月15日（金）　古川町　円光寺

飛騨の魅力を満喫できる体験プログラム「飛騨みんなの博覧会（通称：飛騨みんぱく）」のオープニングセレモニーが古川町の円光寺で行われました。

会場では、プログラムの主催者が集まり申し込み等について勉強した後、都竹市長の「飛騨みんなの博覧会の成功に向けて頑張ろう！」のかけ声とともに予約開始に向け、気持ちを引き締めました。

今回体験できるのは、35プログラム。事前申込が必要で、公式ウェブサイトや電話でのお申し込みができます。

主催者らで成功に向けて気持ちを高めました

秋の高原を駆け抜ける
第19回山の村だいこんマラソン

9月10日（日）　神岡町山之村

標高約1,000㍍の山之村高原を走る「第19回山の村だいこんマラソン大会」が開かれ、さわやかな晴天の下、全国から1,485人のランナーが参加しました。地元特産のダイコンとホウレンソウが参加者に贈られるユニークな大会は、今年で19回目を迎えました。

大会は、天空の牧場山之村を発着点に、3㌔、5㌔、10㌔、ハーフの4コースで行われました。スペシャルゲストの為末大さんも参加し、それぞれ記録に挑戦したり、家族で風景や自然を満喫しながら走るなど、さわやかな汗を流していました。

スタートの様子

きつねの嫁入り情緒豊かに
約21,000人の観客を魅了

9月23日（土）　古川町

飛騨古川きつね火まつりが古川町のまつり広場をメイン会場に行われました。たいまつの灯りにきつねたちが浮かび上がる幻想的な雰囲気が市街地一帯を包み込み、県内外から訪れた約21,000人の観客を魅了しました。

夜にはきつねに扮した花婿と花嫁を乗せた花車など約65人が瀬戸川など市街地を練り歩き、沿道には嫁入り行列を一目見ようと、多くの観客が詰めかけました。

行列がメイン会場に到着すると、「婚礼の儀」や和傘による可憐な「花の舞」、「蛇闘楽」が行われ、おとぎ話の世界がよみがえりました。

小水力発電で地域活性化へ
再生可能エネルギーの活用広がる

9月13日（水）　古川町数河

ＪＡひだ・数河清流発電所の竣工式が行われ、同ＪＡや数河地区の住民、行政関係者など約40人が参加しました。

この発電所は、同ＪＡと地元組織である(株)数河未来開発の両者による協働事業体で運営され、小水力を利用した再生可能エネルギーで発電が行われます。売電収益は両者に按分され、ＪＡでは各事業に、数河地区では土地改良の維持や地域の活力創造など幅広く活用されます。

この日は、神事に続いて通電式、記念碑の除幕式が行われました。

通電式で小水力による発電がスタートしました